

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2012年10月号

発行編集人

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
理事長 シュベネマン クラウス

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第538号

劇作家の平田オリザが「対話の言葉」をテーマにインタビューに応じています。(朝日新聞7月5日オピニオン欄)「ダイアログ(対話)とカンバセーション(会話)は明確に違います。『会話』は親しい人同士のおしゃべり。『対話』は異なる価値観などをすり合わせる行為。しかし、日本語の辞書では『対話』向かい合って話をする。こと』などとされ、区別がない」なぜそうなったのでしょうか。という問いに答えて「日本語は、閉じた集団の中であいまいに合意を形成するのにはとても優れた言葉です」近代化以前の日本は極端に人口流動性の低い社会でした。狭く閉じたムラ社会では知り合い同士でいかにうまくやっていくかだけを考えればいいから同化を促す『会話』のための言葉が発達し、違いを見つけてすり合わせる『対話』の言葉は生まれてきませんでした」といいます。

また「対話のための日本語はいまだに作られていない。」「効率が優先されると対話がおろそかになる。」「対話は民主主義を育てる大前提です。」ともいっています。

めずらしく、新聞記事に共

感したので長い引用になりました。

国会で繰り返されて「討論」は対話でも討論でもなく「ひとりごと」でしかない」と指摘しています。われわれが政治に絶望している理由を改めて指摘された気がします。そのうえで、今後の日本のリーダーに必要な資質として

「聞く力」と「弱者の文脈を理解する能力」をあげています。

もちろんこれは、政治的リーダーだけの問題ではありません。われわれの社会のいたるところで出会う問題です。

私自身の、これまでの生活の中でつむいできた言葉を顧みて、忸怩(じくじ)たる思



日本クリスチャン・アカデミー評議員
関東活動センター運営委員 武田 利邦

「対話の言葉」の不在という 共通認識のために

いではないです。

平田さんは「価値観が多様化した成熟社会では討論よりも対話が重要ですが、日本では変わることを潔しとしない傾向が強いですね。どうしても勝ち負けの枠組で考えてしまう」ともいっています。

長い歴史の中でつくられてきた思考様式、生活様式を變

めと自殺、を考えると、このことは待ったなしの緊急の課題です。

コミュニケーションスキルという科目が、大学や専門学校の授業に登場したのはいつのことでしょうか。「日本語には『対話』の言葉がない」という認識に立つとすれば、それは単なる「スキル」(技術)ではなく、「歴史認識や社会的認識」を含めた幅広いものであるはずですが、そのようになっているのでしょうか。

「対話の言葉」は日本語ではこれから新しく作っていかなければならないもの、という共通認識にたつとすれば、クリスチャンアカデミーの活動もまた新たな役割の自覚が期待されると思います。

約50年以上前に、F. ハイネマンは、デカルトの「Cogito ergo sum」(つぎと(Cogito ergo sum))つまり近代の人間の在り様に代わる現代人の在り様として「respondeo ergo sum」(応答する、故にわれあり)「応答する人間」というモデルを提起しました。

キリスト教信仰とはそもそも神の問いかけへの応答ではなかったでしょうか。

(農村伝道神学校講師)

関東活動センター

●日本クリスチャン・アカデミー聖書講座
共催 早稲田奉仕園

「旧約聖書と新約聖書」

—「聖書」とはなにか—

講師 東京大学非常勤講師 上村 静さん
2012年6月2日(土) 7月7日(土)
日本キリスト教会館



日本クリスチャン・アカデミー関東運営委員会の企画する聖書講座の第三期が二〇一二年六月より始まった。今回は上村静氏(東京大学非常勤講師)を講師に迎えた。講座は上村氏の著書『旧約聖書

と新約聖書—「聖書」とは何か』(新教出版社)を受講生がレポートしつつ、それに講師が応答する形で進められる。

第一回では講師の「いわゆるキリスト教国ではない日本は固有の経験を経てクリスチャンとなっているはず。そうであるのに、もしクリスチャンがすべてに無批判に教えられることを自明のものとして飲み込んでしまうならば、それぞれの固有の経験を教義に飲み込ませてしまうことになりはしないだろうか」との参加者への呼びかけがあった。そして講師からは参加者がそれぞれの固有の経験



を大切にすること、つまりその経験を自分の言葉で言語化してゆく営みこそが信仰の営みであるとして、「自分の頭で考え自分の言葉で語る」とへ招かれた。こうした信仰の営みとしての神学的姿勢が講座の一つのテーマでもある

「聖書を教義から自由にする」という挑戦へとつながっているのだと知らされた。それは決して忌むべきこと拒絶すべきことなのではなく、神のメッセージに新たに出会い直すことなのである。当然参加者の中には戸惑いや抵抗感も見受けられるが、講師の姿勢に疑問があればそれもまた率直に話し合うことが求められている。

第一回の講師の発題テーマは「聖書の非神話化と再神話化」というものであった。聖書という神話論的表象によって表現された古代人の現実理解や世界に対する洞察を現代人に理解できるものへと抽象化することが非神話化であり、そしてその非神話化された抽象化された現実理解やメッセージを語り直すことが再神話化であるという。本来教会の礼拝ではそうした非神話化と再神話化が起こっているはずであるという指摘は牧師としての自らのあり方にもまた反省を促されるものであった。

第二回の講師による発題テーマは「聖書」と「歴史」—解釈学的問題」。聖書は、出来事を体験したものが物語ることとしての「歴史」の制約、また物語る者自体の「歴史」的制約、さらにそれを解釈する者の「歴史」的制約を受けている、という前提のもとにその三重の制約から聖書本来のメッセージを解き放つてゆく試みが、講師からの提案であった。ここで語られたことは、出来事それ自体には意味はない、と言うこと。出

来事はそれに出会い歴史を物語る解釈者の意味づけによって初めて意味をなすものであるのだから特定の解釈を絶対化しないために、出来事自体は無意味であるということを受け入れなければならない、ということが語られた。そのうえで、講師からは自己も他者もともに存在の根本から肯定されるような出来事の意味づけへの可能性を聖書のメッセージはもっているのではないのか、との言葉も。自分の立場を守るためのものではない聖書との出会いに受講生ひとり一人が招かれているということである。

今後テキストの後半部分のテーマを取り扱ってゆくことになる。刺激的な講座に多くの参加者が集うことを願っている。



関西セミナーハウス活動センター

●2012年度「開発教育セミナー」第2回
「先住民族のくらしと私たち」～オース
トラリア・ウラン探掘の現場から～

アジア太平洋資料センター(PARC)共同代表
京都府 精華大学 教員 細川 弘明さん
2012年7月28日(土)～29日(日)



第一セッションでは、講師の細川さんからアボリジニの豊かな文化や暮らしの現状を話してもらった。アボリジニは、5年以上にわたってオーストラリアで狩猟採集漁労生活を続け、自然と共生し、高度な文化を発達させてきたこと。特にアートは、生活の隅々にまで活かされ、欠かせないものとして受け継がれてきたことをたくさん映像で伝えていただいた。



第二セッションでは、ウラ
ン鉱山のため、アボリジニの土地が奪われ、産出されたウランは、日本に運ばれ原発の燃料となってきた。鉱石からウランを取り出す過程では、放射性物質を含んだ水や土が大量に発生し、近隣の自然環境に多大な影響を与えて

いることをさまざまなデータ
を元に話していただいた。

第三セッションでは、「シ
コツの500年」というアイ
ヌ民族の歴史と問題を理解す
るための教材を体験した。日
本の近代化と発展の陰で、ア
イヌの人たちが土地・生活を

奪われてきた歴史をワークで
たどった。

少数民族を犠牲にして成り
立つ私たちの暮らしを知り
ある参加者は、「共通してい
ることは、みんな同じ。全て
自分自身の課題と思います。
被支配の側からものをとらえ

●2012年度修学院フォーラム「若者の未来に寄り添う
—自傷、自死、カルトへの衝動のなかで—」第2回
「絆とは何か—ホームレス支援から見た無縁日本—」

日本バプテスト連盟
東八幡キリスト教会教師 奥田 知志さん
2012年7月21日(土)



無縁社会と言われる日本
で、いま若者が何を求め、ど
う生きようとしているか。長
年ホームレス支援の活動に携
わってこられた奥田知志さん
から、また3・11の震災の
支援の実践を通して「絆」と

いうはやり言葉から話を聞い
た。

今の若者が何に行き詰まっ
ているかと言う観点で「何の
ために」ということが求めら
れている。「働きたいけれど
仕事がない」から「仕事があっ
ても働いてどうなるの」とい
う若者が増えている。仕事の
意味が賃金以上に問われてい
る。絆と言うとき、自分たち
を守るものと考えているが、実
そうではない。自分を亡くし
ていくこと、「私とそれ」か
ら「私とあなた」の関係に変
わっていくところに自己発見

る感性を身につけない」と
語っていた。私たちにできる
ことは、そうした感性を持つ
人たちを一人でも多く増や
すことではないかと改めて
思った。

がある。傷つけないための絆
ではない。つながると減って
いく、ここに人としての自分
の発見がある。講師のホーム
レス支援や3・11支援など
の経験を通して、またご自身
の家庭の経験を通して絆とは
何かを深く示してくれた。「助
けて、と言えたその日が、助
かった日」、「助けて」と言い
合える輪を広げることが提案
してくださった。聖書のイザ
ヤ書53章の「苦難の僕」や
イエスの十字架の意味などの
解き明かしがあった。自分の
十字架は他者のための十字架
である。またイエスが「黄泉
に下り」と使徒信条にあるが、
主が地獄に落ちられたことは
深い慰めである。今日の若者
が求めているのは、この他者
性の中での自己発見である
という話であった。

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**日本クリスチャン・アカデミー 聖書講座**

「旧約聖書と新約聖書—「聖書」とはなにか」

講師：上村 静さん (東京大学非常勤講師)

日時：2012 年 6 月～12 月の土曜日・原則月 1 回 全 5 回 14:00～16:00

④ 10 月 27 日(土)⑤ 12 月 1 日(土) *①～③は終了

会場：日本キリスト教会館 6 階 会議室

参加費：1,200 円 (賛助会員 1,000 円/学生 500 円)

テキスト：『旧約聖書と新約聖書』 (2011 年刊・新教出版社)

共催：早稲田奉仕園

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2012 年度 修学院フォーラム**

東 西 南 北

菅谷 俊孝

関西セミナーハウス職員 (食堂)、8 月 3 1 日付で退職しました。

菅谷 由紀子

関西セミナーハウス嘱託 (食堂)、8 月 3 1 日付で退職しました。

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

財団法人 **日本クリスチャン・アカデミー**
 理事長 シュベネマン クラウス

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
 TEL 075-711-2147
 FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 日本キリスト教会館 1 F
 TEL 03-3207-6198
 FAX 03-3207-2478
 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
 E-mail:info@academy-kansai.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
 E-mail:office@academy-kansai.org

「高齢を生きる—認知症・胃ろう・尊厳死を見据えて」

第 2 回「高齢者福祉を繕う—NPO ちいろばの働きを考える」

講師：君村 淳 (NPO ちいろば「晴れる屋」責任者)

君村 千代子 (NPO ちいろば「ス カサ」責任者)

日時：2012 年 10 月 27 日 (土) 12:00～15:30

会場：あなたの居場所「ス カサ」 (京都市伏見区)

参加費：1,000 円、学生 500 円 (ランチ・コーヒー込み)

■**お茶のこころと宗教のこころ**

第 2 回「お茶とキリスト教」

講師：高橋 敏夫さん (春日部福音自由教会名誉牧師、表千家教授)

日時：2012 年 11 月 5 日 (月) 13:30～17:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：2,000 円 (抹茶代込)

■**開発教育セミナー**

2012 年度第 5 回「「多みんぞくニホン」を生きる～在日コリアンとベトナム難民～」

講師：山中信幸さん、織田雪江さん、丸山まり子さん (開発教育研究会)

日時：2012 年 11 月 10 日 (土) 16:00～11 日 (日) 12:00

参加費：10,500 円 (1 泊 2 食込み)

■**もみじまつり関連特別展**

渡辺総一作品展「み言葉はわが道の光」

日時：2012 年 11 月 18 日 (日)～23 日 (金・祝)

期間中 9:00～18:00

但し 18 日 13:00 より、

23 日 16:30 終了

会場：関西セミナーハウス

入場料：18 日～22 日無料、23 日はもみじまつり入場料が必要。

賛助会費・後援会費・寄付金報告

2012 年 8 月 1 日～2012 年 8 月 31 日 (順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

賛助会費

吉田 瑠都 5,000
 関田 寛雄 5,000

寄付金

松本 なを子 3,000
 高畑 昭久 5,000
 久世 礼子 3,000
 加藤 真軌子 5,000

◆**関西セミナーハウス**

寄付金

同志社神学協議会 50,000
 高塚 郁男 10,000

◆**関西セミナーハウス活動センター 賛助会費**

奈倉 道隆 3,000
 小久保 正 10,000
 堀江 優 10,000
 関西青年アシュラム 10,000
 市村 かおり 3,000

寄付金

西上 壽一 5,000
 相浦 和生 3,000
 日本基督教団 長岡京教会 10,000
 奈倉 道隆 3,000
 関西青年アシュラム 20,000
 榎田 道子 3,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。

2012 年度関西セミナーハウス

もみじまつり

お茶席・箏演奏・ファミリーコンサート、日本舞踊

渡辺総一作品展 (11 月 18 日～)、作者によるトークタイム

日時 11 月 23 日 (金・祝) 9:00～16:30

前売券 3,000 円 (お茶席 2 席、弁当込み)

お問合せ・申込み 075-711-2117

office @ academy-kansai.org